

施設規模の検討の前提条件

- ✓ 以下の蔵書数、収蔵庫面積、展示・開架の一体化を前提に検討を進めている。

蔵書数

- ✓ 震災前、郡内で中核的な役割を担い、約**14万冊**を収蔵
- ✓ 原子力関連資料等の収集強化、震災以降保存の必要な資料数が増加している
- ✓ 町内企業・起業家等を中心としたビジネス支援を新サービスとして強化したい
- ✓ 近隣自治体誘致施設等を起因とした町内移住者向けの資料収集

資料分野	検討資料数
地域資料・行政資料	1.5万点
特定主題資料（地域研究・課題）	2.5万点
ビジネス支援資料 （産業交流施設やインキュベ施設を意識）	1万点
一般資料	5.5万点
YA資料	1万点
児童資料	2万点
参考図書	0.5万点
視聴覚資料	0.5万点
合計	14.5万点

※蔵書数5万冊を想定し、その差、0.5万冊については保存期限を有する雑誌・新聞の収蔵

収蔵庫面積

まほろん	360㎡（資料の現専有面積180㎡）
総合体育館等	1,100㎡（資料の現専有面積550㎡）
今後の収集資料	365㎡（現保有資料分の1/4）
	= 1,825㎡（最大面積）
	- 800㎡（積倉可能分）

収蔵庫面積としては**1,000㎡**を目安に検討

展示・開架の一体化

歴史的資料／展示「室」のハードルの高さ **+** フリーで気軽な図書館開架

資料／展示をきっかけ **+** 図書で知識を深める

震災関連公文書の移管

- ✓ 東日本大震災と原発事故に関する公文書の一部を総務課から本施設に移管予定

施設規模の検討状況

✓ セイムスケールや従前の状況から施設の規模感を検討している。

他館事例を活用した規模感の検討



前提
施設建設予定地（黄色）
約7000㎡

従前の大熊町の類似施設の規模

館名	延床面積 (㎡)
大熊町図書館（民俗伝承館含）	2,225
大熊町中央公民館	875
大熊町農村環境改善センター	1,221
大熊町文化センター	4,575

検討状況

- 那須塩原市図書館みるるの大きさが近い規模である
- 従前施設は9,000㎡弱の規模であった

5,000㎡を目安に検討中



施設規模の検討状況①

✓ 他自治体事例から開架面積・閉架面積を検討

蔵書数と開架面積・閉架面積の関係

	旧図書館	みるる	瀬戸内	久慈市 YOMUNOSU	伊東市 新図書館
開架面積	904	3,000	850	957	2,000
閉架書庫面積	72	165	150	150	350
開架冊数	62,231	100,000	120,000	90,000	133,200
閉架冊数	52,117	100,000	80,000	55,000	199,800
開架部㎡/冊	0.01453	0.03000	0.00708	0.01063	0.01502
閉架部㎡/冊	0.00138	0.00165	0.00188	0.00273	0.00175

15万冊の蔵書に対して

- 10万冊を開架図書とする
- 5万冊を閉架図書とする 場合

開架面積：1,500㎡程度が目安

閉架面積：100㎡弱が目安

ただし、常設展示を点在させることを考えれば開架部の面積は追加が必要

→ **開架面積を2,000㎡**にて設定



那須塩原市みるる

10万冊に対して3,000㎡を確保するとこの程度のゆとりとなる。



久慈市YOMUNOSU

9万冊に対して1,000㎡とするところのような空間となる。

施設規模の検討状況②

✓ 展示・開架の一体化（案） 課内検討状況

展示施設案

令和4年1月4日
大熊町教育総務課



現在の大熊

● 現在の避難指示解除状況 / 観光スポット

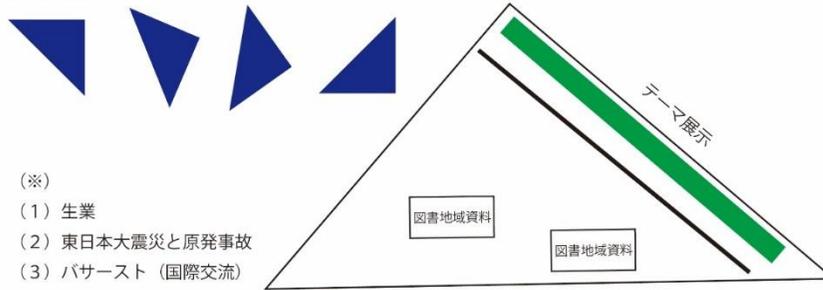
古民家(吉田家住宅) & 近世~近代展示



エントランス&通史展示



図書地域資料 & テーマ展示 (※)



- (※)
- (1) 生業
 - (2) 東日本大震災と原発事故
 - (3) パサースト (国際交流)

生業展示 (テーマ展示)



施設規模の検討状況③

✓ アンケート・ヒアリング結果からホールに関する意見の検討（課内検討）

アンケート結果

- ・「子ども」「子育て世代」の利用しやすさに関する意見が多い。ほか「小さくていいので演奏会や発表会ができるような」「コンサートができるような」ホール、また音楽練習室、体育施設の要望が複数。
- ・施設利用の障害として駅西と大川原が「遠い」とする声複数。

想定利用者等ヒアリング結果

※2022年12月とりまとめ

- ・想定利用者として生涯学習団体を中心に聞いたこともあり、公民館的利用想定が顕著。避難先にいる生涯学習団体が日常的な練習や荷物置きの場として使う意向は現時点ではない。ただし、発表の場としてのリンクルのホールの不十分さ（ステージが狭い）を指摘する声が多い。ほかキッチンの要望あり。

- ・東電寮入居者からは体を動かす場所（特に屋外）の要望が多く聞かれた。放射線等に関する資格取得のための専門書や参考書、1Fへの出張者が利用するオンライン会議スペース等があれば、東電関係者の利用が見込めるとの声あり。

●アンケートでは大川原地区既存施設での機能共有が可能かと想定したが、ヒアリング結果から「ホール」の必要性について検討

●その他施設の状況

- ・（駅西）産業交流施設は多目的ホールをつくるがビジネス関連のカンファレンス想定
- ・（ゆめの森）体育館は夜間、土日のみ使用可

●現状の施設計画とホールの親和性について

- ・表現の場と社会教育の親和性は高い
- ・大きな音を出す場を施設内に収める工夫が必要
- ・目的に特化した設備・広さの要望と多目的に使えるスペースの要望が混在。
- ・目的を特化すると多目的に使いにくい。特別使いの機能を日常使いの施設に入れる工夫が必要

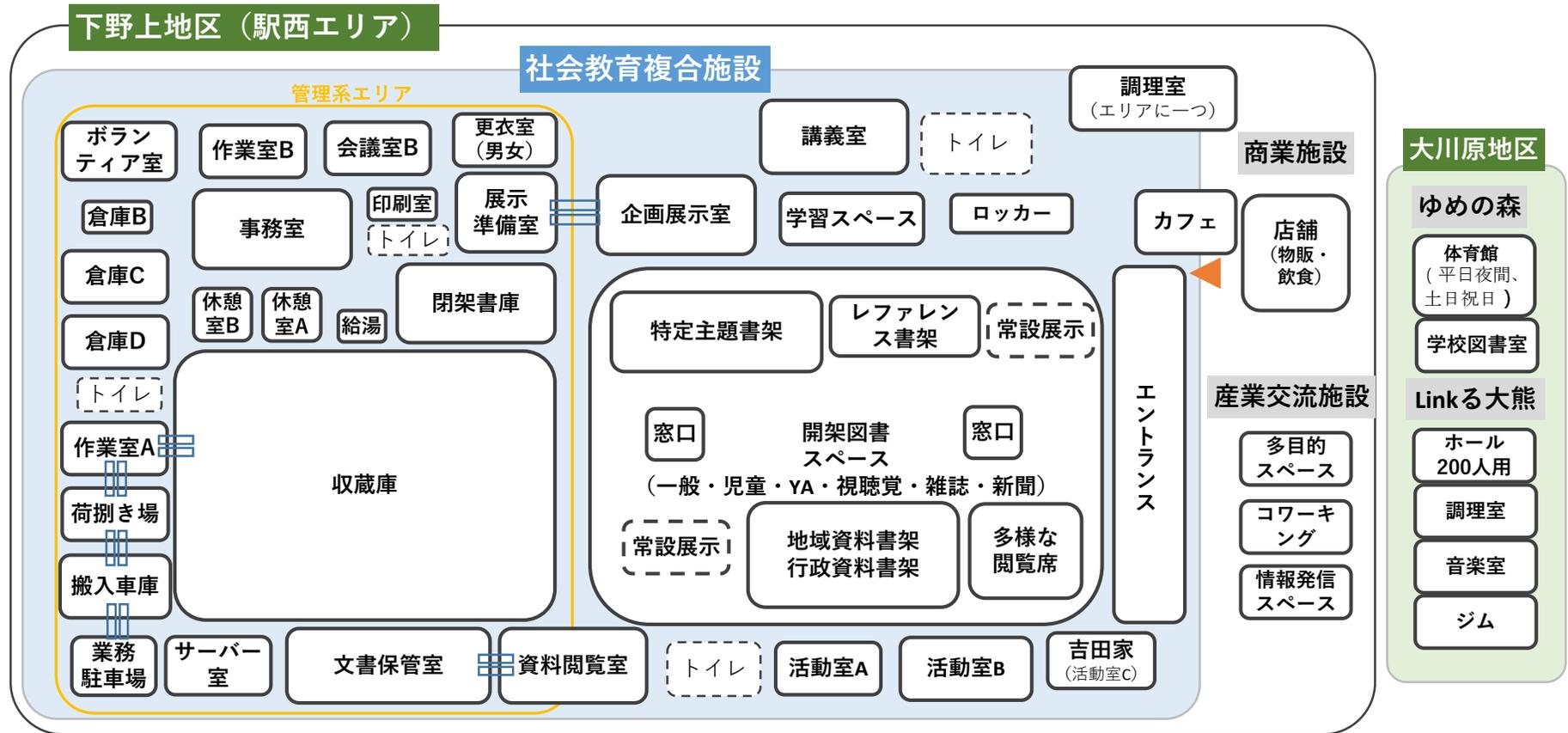
●既存文化センター建設経緯調査

建設当時、町内活動団体数が40を超えていた。

現時点では、特定の目的に絞ったホールの必要性について判断ができないことから、基本構想への掲載は見送ることとする。ただし、多目的に使えるスペースをエントランス等で確保したい。表現の場の必要性は引き続き検討していきたい。

検討中の諸室・機能

- ✓ 事業案や他自治体事例を参考に諸室の機能と規模を検討している。



※管理系に「機械室」は必要 ※「社会教育複合施設」内の各諸室サイズはおおよその面積割合を示します